

コラム②

中世城郭とその遺構

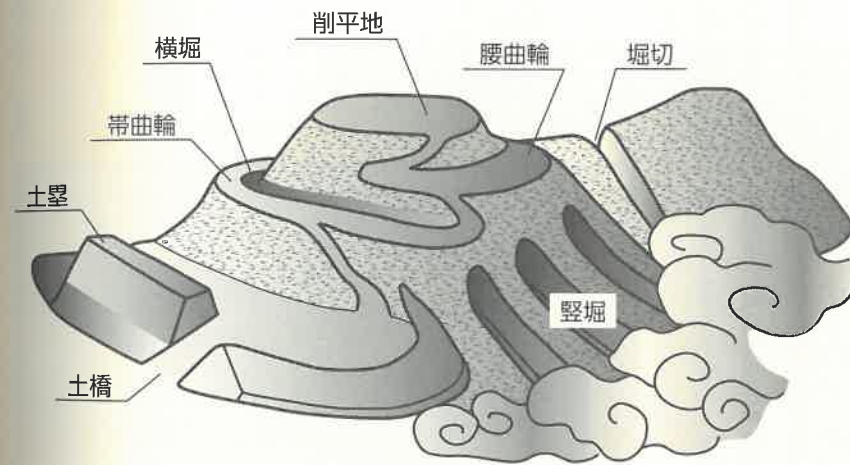
城郭に関する用語は、中世の文献史料に表れる語彙や、江戸時代以降の城郭研究のなかで生まれた用語などがあって、少々わかりにくい。ここでは代表的なものを簡単に解説しておく。

いろいろな城

城郭は敵に対する戦闘・防御拠点である。中世、特にその末期の戦国時代には、さまざまな城郭が各地に設けられた。例えば、山城、平山城、平城は城の拠って立つ地形に応じた呼び方である。また、指揮官の居所であり、政治的な拠点を兼ねた城を本城、それを守るために配置された城を支城、そのうちさらに規模の小さなものを出城、砦などとも呼ぶ。

縄張り

城郭は、地形を巧みに利用しながら、曲輪や堀、石垣などの諸施設を配置した。縄張りは縄を張って境界を定め特定の地域を明らかにすることだが、城郭用語としては、曲輪や堀、石垣など諸施設の配置やその配置計画を意味する。また、主に城郭の持つ防御性に注目して、地表に残る曲輪や堀、石垣などの遺構を描いた図面を縄張図という。縄張図は遺構の立体的な特徴を加味して、平面上に図示したもので、敵密な測量によって描かれた



中世城郭

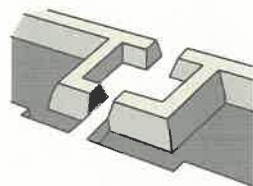
実測図とは異なるが、城郭の特徴を理解するのに役立つ。  
曲輪とは、城郭において軍事や日常的な生活のために造成された平場のことで、「郭」とも

書く。城郭の最も中心となる曲輪を「主郭」、それに準じるものを「副郭」などという。また、主郭など面積の広い曲輪の周囲にある緩やかな斜面を削って設けた曲輪を「腰曲輪」、横堀を隔てて帯状になったものを「帯曲輪」という。

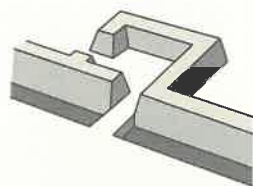
土塁・石垣・堀

曲輪の防御性を高めるのが土塁や石垣、堀である。土塁は、曲輪を周囲

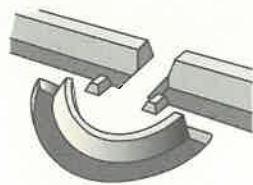
から地形的に隔絶した空間にするために、曲輪の縁辺に設けられたもので、土を盛り上げて造られた。なお、敵兵の横からも攻撃を加えることができるよう屈曲させた土塁を「横矢掛かり」という。石垣は斜面の土止めなどのために石で築いた壁のことである。市域では八王子城で採用されているが、豊臣政権が関係した城郭で発達し、江戸時代の城郭に引き継がれていく大規模なものとは異なっている。堀は、曲輪の周囲に掘られた大規模な溝で、中世の城郭の場合、水が張



外柵形門



内柵形門



丸馬出

られていない「空堀」が普通である。また、曲輪の周りに沿って掘られたものを「横堀」、尾根を断ち切るように造られたものを「堀切」、斜面の等高線に対して直行する方向に掘られたものを「竪堀」という。

虎口

「虎口」は城郭の出入り口のこと。攻防の要所となるため、敵の直進を妨げたり、味方の人馬の出入りを敵方に知られないようにするため、様々な工夫が凝らされた。虎口の外側ないし内側に方形の空間を設け、ここにもう一つの出入り口を造りつけたものを「柵形」、虎口の外側に弧状またはコ字形に土塁や石垣を積んだものを「馬出」という。